

十年後のお母さんへの手紙

高橋 渉真たかはし しょうま

夏休み、おばあちゃんの家に行くとき、

「渉真に手紙だよ。」

と、わたされました。それは、ぼくがまだ九カ月で、すわ町にいたころに未来ポストに入れた十年前にお母さんがぼくあてに書いたものでした。その手紙を受け取った時、こんな手紙があることも知らなかったし、親せきみんなの前であけるのは、もったいない気がして自分のリュックにすぐしまいました。

そして、その日の夜、お母さんといっしょにあけました。そこには、九カ月のぼくが、

「ママッ。」

とさげび、つかまり立ちや、つたい歩きをしている赤ちゃんの様子が書かれています。

「この手紙を受け取った渉真くんは、どんな男の子かな。やんちゃぼうずかな、とにかく毎日元気に走りまわっているんだろかね。」

これからも元気にのびのび育って行って下さい。お母さんは二〇〇九年も二〇一九年もずーっとあなたが大好きです。」

と書いてあり、泣きそうになりました。お母さんもなみだをふきながら、わらいました。それを見てぼくは、

「何でこんな手紙書いたの。」

と言いました。するとお母さんは、

「渉真は小さいころ、おとなしくて、はずかしがり屋でホントに大丈夫かな……って思ったから。」といって十年前にとった写真も見せてくれました。

「ねっ、こんな小さかったのに、こんなに元気で大きくなってんだから、写真からは、予想できなかったよね。でも、いい子に育ってくれてうれしい。」

といってくれました。ぼくは大事にされているんだと、うれしくなり、なみだが出ました。だからぼくも、十年後のお母さんに手紙を書きたいと思います。内ようはひみつです。でもぼくはすなおに、きちんと十年後の五十才のお母さんに書くので楽しみにしてて下さい。そして、二〇二九年はいっしょにその手紙を読みましょう。